

地域のほこり！ 見守り応援隊とともに歩む推進員活動 ～認知症でも自分らしく暮らせる町へ～



山形県 金山町

金山町地域包括支援センター

認知症地域支援推進員 松田 千穂

山形県金山町の概要①

人口 : 5,797 人

65歳以上人口 : 1,950 人

高齢化率 : 33.6 %

(平成29年4月1日時点)

日常生活圏域数 : 1か所

地域包括支援センター : 直営1か所(健康福祉課)

※H18～24年度 町社会福祉協議会と同事務所に設置

H25年度～役場内へ

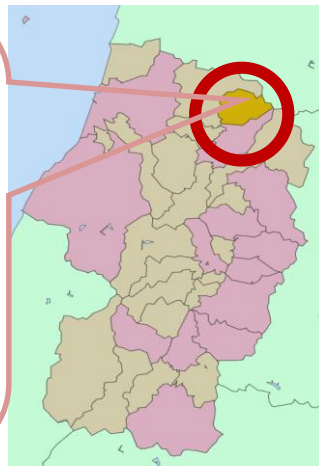
認知症地域支援推進員 : 3名

(包括支援センター介護支援専門員、保健師が兼務) 2

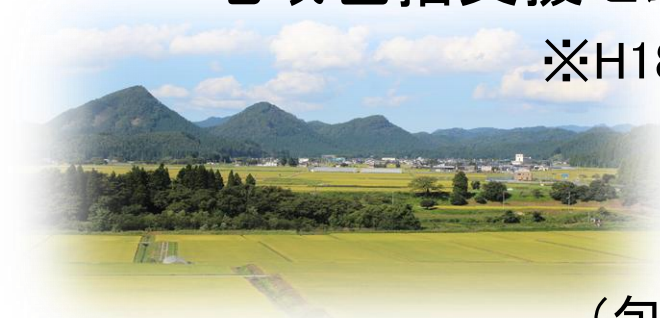
面積 161.67
平方キロメートル

産業 農業・林業

名産 米(つや姫等)、
山菜、キノコ、
米の娘ぶた、ニラ



50km



山形県金山町の概要②

交通機関： 国道13号線、路線バス、
町営バス、タクシー

町の中心部から端までは車で15分程度
地区同士が行き来できるよう

環状に道路が整備

冬期間の積雪： 年間 120～220 cm

寒冷、除雪・屋根の雪下ろしへの不安



地域性・住民性

認知症の知識不足
認知症であることを隠す
助けを求めにくい地域性

地縁・血縁の支え合いあり
(インフォーマルな支援
の風土)

- ・認知症高齢者の割合が県平均より高い！
- ・一人暮らし認知症の支援が大変！

山形県市町村認知症施策

総合推進事業を実施

目指した地域の姿

- ・ 高齢になっても住み慣れた地域で安心して暮らし続けられるような地域
　　<地域の一員としてともに生活できる>

H23年度の具体的な目標

- ・ 地域包括支援センター職員の意識を統一する
- ・ 認知症の方を介護する家族や介護支援専門員の方に聞いてみる
- ・ 地域での認知症の方とその家族を支援するしくみを作っていく

金山町の認知症施策①

	事業名	内 容	ポイント	年度
1	認知症地域支援推進員育成	H23年度に介護予防推進員(介護福祉士)が研修を受講。行政担当と一緒に活動を推進。 H26・H27にも研修受講。(計3名)	・要介護認定申請時の認知度ランク2A以上が県平均より多い(61.9%)。 ・一人暮らしされている認知症の方の支援の大変さ。	H23 ～
2	認知症の方を介護する家族の会	介護の悩みや工夫、介護者の経験や情報を共有し、在宅介護の推進につなげる。	介護者の集い→家族会へ 介護者の声から支援の「手引き」を作成。 家族である子ども達の教育の必要性。	H23 ～
3	認知症サポーター養成講座	小学校、消防団、商工会等町内の団体を対象に実施。認知症の正しい知識や対応の仕方を地域全体に普及。	特老スタッフ、診療所看護師、薬局スタッフ等もキャラバンメイトとして活躍。	H23 ～
4	関係職種との連携推進	介護支援専門員情報交換会等において認知症支援について講話、情報交換。	H27～多職種連携会議、 <u>H29～認知症初期集中支援事業へ。</u>	H23 ～
5	認知症等地域支援推進協議会 (→高齢者総合支援推進委員会)	認知症・高齢者支援のための関係機関によるネットワークづくり。認知症高齢者や家族への支援体制の構築を検討。	H27～地域ケア推進会議や介護保険事業計画策定委員会等も兼ね「高齢者総合支援推進委員会」へ。	H24 ～

金山町の認知症施策②

	事業名	内容	ポイント	年度
6	物忘れ相談	タッチパネル式パソコンで、認知症のスクリーニングを行う。健診会場や介護予防事業で実施。	結果の伝え方や、要経過観察の方への支援を工夫。主治医や医師会との連携。	H24 ～
7	ホットさろん (認知症カフェ)	認知症等高齢者、介護者等が気軽に集まり、相談や情報交換を行う場。	講師として、専門職(看護師、理学療法士、管理栄養士等も参加)	H25 ～
8	高齢者等 あんしん応援隊	高齢者総合支援推進会議の構成員・事業所、認知症サポーター等による声かけ・見守りで認知症・高齢者の方を地域で見守り支える体制づくり。	住民や関係機関によるあんしん応援隊。ステッカーやマグネットを配布し目印に。	H26 ～
9	認知症ケアパス 作成	認知症の症状や経過、相談先やサービス等資源の情報。	町内の医療・介護・福祉関係者と共同で作成。	H27
10	ひとり歩き等高齢者支援事業	徘徊高齢者等の情報を町・警察に登録し、行方不明時の迅速な捜索に生かす。	家族の希望と同意があれば、必要な関係機関に情報提供できるように。	H27 ～

今回ご紹介する取り組み

新オレンジプラン

- 高齢者総合支援推進委員会の前身である「認知症地域支援推進委員会」が提案
- 地域のなかで、認知症や高齢者の方へ、声かけ・見守り→地域の見守り体制構築

認知症を含む高齢者にやさしい地域づくりの推進

- 認知症サポーター養成講座修了者等、住民や関係機関が応援隊に

認知症への理解を深めるための普及・啓発の推進

認知症の容態に応じた適時・適切な医療・介護等の提供

「認知症地域支援推進員」

- ・医療・介護等の支援ネットワーク構築
- ・認知症対応力向上のための支援
- ・相談支援・支援体制構築

広げよう地域の見守り・支え合いネットワーク!

金山町高齢者 あんしん応援隊

このマークの絵巻にご協力をお願いします!

金山町
高齢者あんしん応援隊

地域の昔ながらのお互い様のお付き合い、
相手を気づかう温かい見守り・支え合いネットワーク。

尊厳をもって最後まで自分らしくありたい…しかし、誰もが年を重ねる過程で認知症となる可能性があり、老後の最大の不安となつてつあります。高齢者世帯や認知症高齢者の増加が予想される中、住民のみなさんの気持ちに寄り添った温かい支援と理解があれば安心して日常生活を続けていくことができます。

金山町では、高齢者や認知症の方及びその家族に対して、有効な支援体制を構築することを目的とした「金山町認知症等地域支援推進協議会」を基盤に、地域で安心して暮らしているよう、住民見守り・支え合いネットワーク「高齢者あんしん応援隊」を立ち上げました。

高齢者あんしん応援隊とはどんな活動をするの?

地域の高齢者や認知症の方々、及びそのご家族のみなさんを身近で温かく見守り、手助けしていただく存在です。地域の身近な相談窓口としての活躍を期待しています。
みなさまのご協力をお願いします。

ちょっとした声かけや会話

ちょっとした変化や様子を気にかけていただく

ちょっと困ったときに相談のついでにいただく

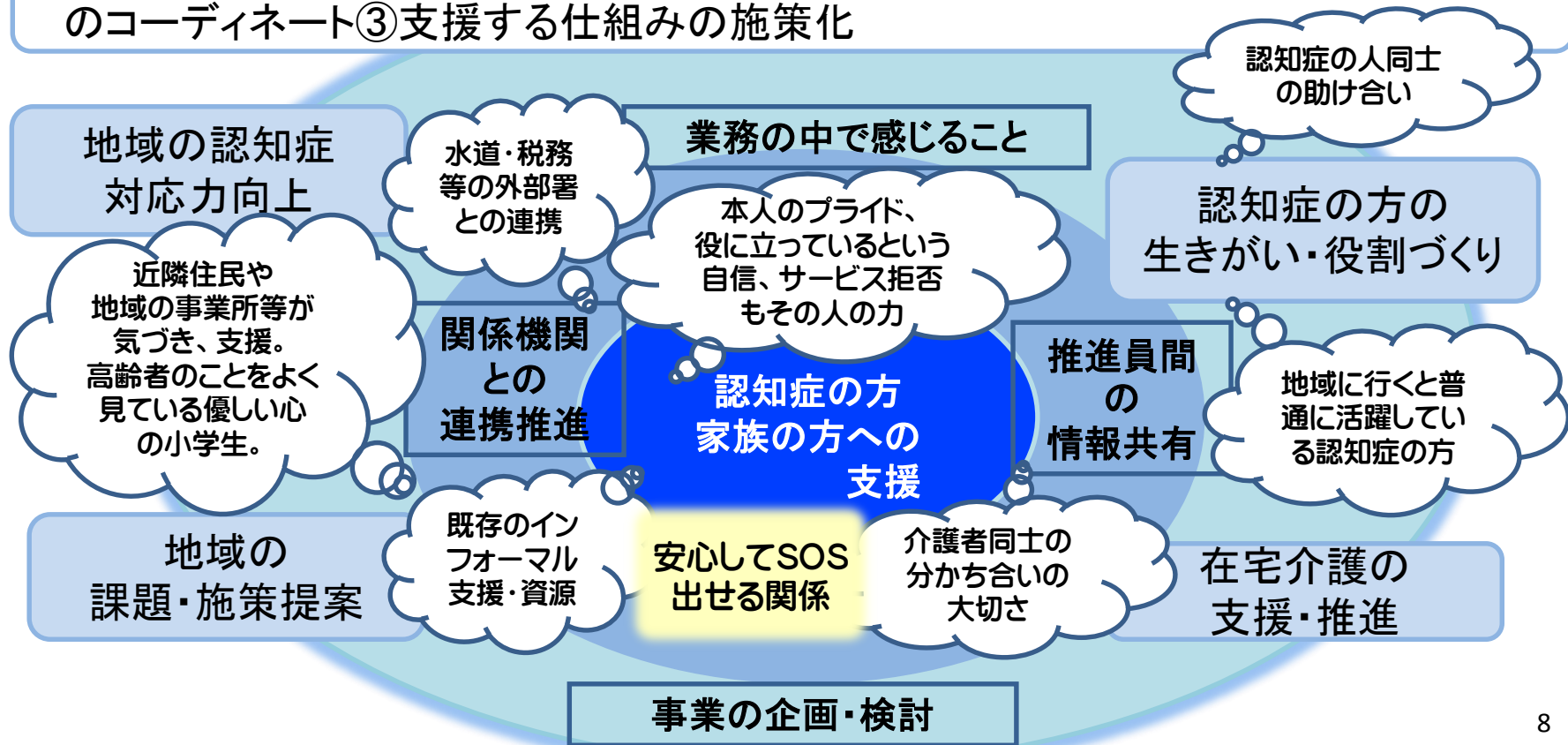
ちょっとした手助け

お問い合わせ先
金山町高齢者あんしん応援隊
TEL: 0233-52-3035

お問い合わせ先
金山町地域包括支援センター(金山町役場内) TEL: 0233-52-3035 (内線)

推進員の役割 ～町から求められている姿～

- ①高齢者本人・家族のための事業②本人・家族の相談支援、支援体制を整えるためのコーディネート③支援する仕組みの施策化



高齢者あんしん応援隊①

<背景・きっかけ>

・H26年3月の認知症等地域支援推進協議会で
構成員が「何か私たちにできることをやりたい！」

関係者同士
情報交換を行い、見
守り体制について考
えてきたが・・・実践
にうつそう

「見守り110番をつくりたい！」

介護者代表、民生委員、議員、農協等の声

うちのおじいさんが、
となり町で迷い、助
けられたことがあつ
た。

・「認知症サポーターの存在を知ってほしい」住民の声

・県内で徘徊高齢者等事前登録の取り組みを実施。

県警「やまがた110ネットワーク」で情報提供。

銀行・農協・
コンビニ等で、
認知症の方の
対応をする場
面が多い。

高齢者あんしん応援隊②

<経過>

H26年7月・・・認知症等地域支援推進協議会の中で

認知症地域支援推進員が提案

H26年12月・・・素案をつくり、町内のイラストレーター
にチラシ・ステッカーのデザインを依頼

H27年2月・・・**「認知症研修会」の開催**

県家族の会代表の講話、町民の介護体験発表、
認知症支援のためのワークショップ

→応援隊事業の紹介、見守り支援の呼びかけ

金山町らしい
取り組みにしたい！

目印のステッカーに、金山杉の年輪を。

金山らしさ

営業車・バスに貼ってはどうか？

認知症介護の心構え、
地域支援の必要性、
予防について・・・
意見がたくさん！

高齢者あんしん応援隊③

- ・認知症サポーターや区長、各団体代表等の住民の方、議員、民生委員、消防署、警察、郵便局、商工会、医療介護関係機関、NPO法人等へ協力依頼。
- ・高齢者の方への、あいさつ・声かけ・変化への気づき、ちょっとした相談や手助け。
- ・応援隊は、組織化していない。
気持ちのある方が、自分でできる支援を行う。



高齢者あんしん応援隊④

<工夫したこと>

①熱意ある住民(介護経験者・議員・民生委員等)と一緒に
応援隊の立ち上げをすすめた。

住民や関係機関の
関心が高まった。

→ 住民が協力してくれ、広く周知。

②講演会・介護体験発表

・ワークショップで
応援隊の紹介、周知。

動機づけ、
意欲向上
につながった。

→地域の見守りの大切さ。

自分たちも協力することが大切。



高齢者あんしん応援隊⑤

<得られた効果>

①地域の方に、見守りについて頼みやすくなった。

○何をすればいい…？

「無理しないで自分ができることを
すればいい。！」

○目印のステッカーで
「自分ひとりではない、
勇気を出して行動へ」

住民どおし
だと助言も効
果的に。



<得られた効果>

②地域の見守り体制の把握。

地域住民との連携が図られるようになった。

○認知症の方が認知症の方を心配し、相談へ。

○家族・支援者の住民を交え、
地区公民館で地域ケア会議を開催。

・家族の理解を得て、
登録情報の共有範囲を
広げること。
(民生委員・事業所等へ)

○関係機関からの情報や相談も、
地域包括支援センターに入るようになった。

→ひとり歩き高齢者支援事業の申請・登録へ。

・家族、住民、それぞれの役割を確認。
・地域と包括の間で、連絡しやすい関係ができた。



<得られた効果>

③本人の「自分らしさ」や「できること」に目を向けた支援を
考えるようになった。

○認知症の独居高齢者。(脱水で妄想や不眠・・・)

応援隊でもある同級生のあたたかい見守りや声かけ

→半年後には農作業のお手伝い！

○認知症カフェに家族と参加した男性。(毎日散歩している)

昔の町の話聞き出すうちに家のルーツが分かった。

→家族からは「知らなかった～、

おじいちゃんすごいね！」



推進員としての活動の課題

- 地域にはまだまだ、認知症に対する知識不足や、助けを求めにくいところがある。
- 認知症カフェ等、事業への参加者が固定化。
- 推進員活動で行き詰まった時・・・
他の推進員はどうしているの？
- やりたいことはあるけれど
推進員だけでは人手不足。



今後の活動・取組の方向性

- ① 包括支援センター業務の中で、推進員の視点を意識。
- ② 推進員どおしの情報交換、情報共有で、認知症の方の社会参加を可能にしていく。(総合事業の受け皿へ)

※山形県では推進員の研修・情報交換会や出張認知症カフェを開催し推進員を支援。

- ③ あんしん応援隊～住民の方々・関係機関を仲間にして、認知症支援の「まちづくり」をすすめていく。



町外の推進員との交流も大事に。

心優しい小学生、おせっかいおばちゃん、息子のようなバス運転手・・・とともに。

子どもたちの声

「あなたが高齢者になったら周囲から
どのように接してほしいですか？」



- ★ みんなと一緒に笑っていたい。
- ★ 普通の人と変わらずに、優しくしてほしい。
- ★ 無視しないで声をかけてほしい。
- ★ いつものように接してほしい。いつもどおりに生活したい。
- ★ なるべく周囲の迷惑にならないように生活したい。
- ★ ずっと家族と生活したい。
- ★ 施設に入るより、多くの時間を家族と一緒にいたい。
- ★ 悪気があって病気になったのではないから理解してほしい。
- ★ 長生きしたい。

子どもたちが考える 「自分たちにもできる」こととは？

- ★困っていたら「どうしましたか？」と声をかけていきたい
すすんで、手助けしたい。
- ★小さなことでも手助けしたい。何か役に立ちたい。
- ★優しく接したい。親切にしたい。
- ★元気なあいさつ。笑顔で声をかけたい。会話をしたい。
- ★認知症の人と同じ人間。困っていたら助けたい。
- ★自分がしてほしいことを同じようにしていきたい。
- ★「ありがとう」と言えるような関わりをしていきたい。
- ★その人の気持ちを考えて対応したい。
自分や家族だったらと考えて。
- ★認知症の人にも、それ以外の人にも笑顔でいたい。
- ★少しずつ寄り添って支えていきたい。



こんな素敵な
あんしん応援隊を
ほこりに。

認知症になっても、高齢になっても 地域でふつうに活躍できる町へ！

推進員自身が、
高齢者に学び、
地域の中で楽しく
活動できると
いいですね！



ご静聴ありがとうございました

